

沖縄県平和祈念資料館だより



故 吉浜忍 会長

第1回沖縄県平和祈念資料館展示更新監修委員会

「～思いを胸に～」

沖縄県平和祈念資料館（本館）は、沖縄戦の歴史的教訓を正しく次の世代に伝え、全世界に「沖縄のこころ」を発信し、恒久平和の樹立に寄与することを目的に、1975年に設立され、2000年に現在の資料館として、移設改築されました。

しかしながら、開館から25年目を迎え、時代に見合った展示リニューアルが求められており、開館から26年目を迎える八重山平和祈念館（分館）においても同様、課題となっております。

戦後80年を前に、広島平和記念資料館や長崎原爆資料館、ひめゆり平和祈念資料館など、県内外の平和博物館においては、戦禍の記憶を風化させず、次世代に継承するため、展示リニューアルに取り組んでおります。

本県においても、戦争体験者が約1割未満となり、戦争体験者なき時代に向かう現在は、大きな分岐点にさしかかっており、パレスチナ自治区ガザの紛争や、ロシアによるウクライナ侵攻、台湾有事など、国際情勢が緊迫化している現在において、平和発信拠点施設としての役割は、ますます重要になっていきます。

このため、展示更新に向けた基本構想・基本計画を策定するため、有識者で構成される監修委員会を立ち上げ、6月13日に初めての会合を開催し、貴重なご意見をいただいたところです。

このような中、去る8月23日、当監修委員会の吉浜忍会長ご逝去の報を受け、当資料館職員一同、深い悲しみつつまれております。

吉浜会長は、新沖縄県史編集委員会と第32軍司令部壕保存・公開検討委員会の会長も兼務され、沖縄戦の継承と平和教育に多大なるご尽力をいただきました。生前、「若者に響く展示手法を模索し、県民が何度も訪れるような資料館にしたい。」とおっしゃられた時の、吉浜会長の希望に満ちた表情を忘れることができません。

吉浜会長の訃報を前に、未だこの悲しみから抜け出せずしておりますが、私達は、会長の思いを胸に、リニューアルを通して、沖縄戦の記憶を風化させず、より一層発信力のある資料館に生まれ変われるよう全力で取り組んでまいります。

展示リニューアルの基本的な考え方について

1. 施設の沿革

○沖縄県平和祈念資料館（本館）【1975（S50）年：旧資料館開館、2000（H12）年：現資料館移転改築】

戦争の犠牲になった多くの霊を弔い、沖縄戦の歴史的教訓を正しく次代に伝え、全世界の人びとに「沖縄のこころ」を発信し、もって恒久平和の樹立に寄与する施設として設立

○八重山平和祈念館（分館）【1999（H11）年：八重山平和祈念館開館（マラリア慰藉事業費を活用）】

「戦争マラリア」の実相を後世に正しく伝えるとともに、人間の尊厳が保障される社会の構築と八重山地域から世界に向けて恒久平和の実現を訴える「平和の発信拠点」の形成を目指すことを理念に設立

2. 基本方針

- 本館、分館の設立理念及び趣旨に沿ったリニューアル
- 平和について学習する場の充実を目指したリニューアル
- 多様な来観者に配慮したリニューアル

3. 主なりニューアル検討箇所

○沖縄県平和祈念資料館（本館）

（2階：常設展示室）

- 新しい沖縄県史等の記述を踏まえた説明文の見直し、1998年以降の事件・事故などの追加
- 証言本や証言映像機器の更新、老朽化した説明文及び展示物の更新
- 障がいのある方や外国人など多様な来館者への配慮（展示ケースを見やすいように配置、多言語化等）
- 最新のデジタル技術を活用した展示手法やスマートフォンを活用した展示案内等の導入

（1階：子ども・プロセス展示室、情報ライブラリー）

- 世界で起こっている時事問題等、時代に即した展示内容の見直し
- 展示方法の見直し（サイネージなど可変型展示の導入）
- 多目的スペースの拡充（企画展や交流の場として活用）
- ライブラリー機能の充実（図書の実等）

○八重山平和祈念館（分館）

- 老朽化した説明文及び展示物の更新
- 戦争に至る（巻き込まれる）までの経緯等の追加
- 八重山地域の戦後復興に関する展示の追加

4. 令和6年度の事業計画

来館者等のアンケート分析や類似館施設等の調査を行うとともに、監修委員会における有識者検討を踏まえ、「基本構想」「基本計画」を策定します。基本構想、基本計画の中で段階的に展示内容等を具体化していきます。

リニューアルの取組については、沖縄県ホームページに掲載しています。

第1回ギャラリー展「迫りくる戦場 ～戦争体験者の絵で見る沖縄戦前夜～」

期間 2024(令和6)年5月28日(火)
～2025(令和7)年3月10日(月)

今からちょうど80年前の1944年、沖縄に第32軍が配備され人々の生活は戦時色に染められました。10代の学生をはじめ、男女を問わず多くの方が「根こそぎ動員」され、その一環として疎開も行われました。

対馬丸事件や十・十空襲といった悲劇もおき、戦争の足音が確実に近づいていた沖縄戦前夜の様子を、戦争体験者が描いた絵を通して紹介しています。



2024(令和6)年度 語り継ぎ手養成講座(新規事業)

期間 2024(令和6)年9月7日(土)～2024(令和6)年12月14日(土)

場所 沖縄県平和祈念資料館、沖縄県教職員共済会館、PC-ワールド(石垣市会場)

戦後79年が経過し、戦争体験者の高齢化に伴い、これまで第一線で平和講話(学習)を担ってこられた方々が減少しており、さらに、現在活動中のボランティア団体の平和講話(学習)の担い手も高齢化しており、後継者の育成が喫緊の課題となっています。

本事業は、戦争を知らない世代が増える中で、沖縄戦から得た教訓を次世代に継承し、命と平和の尊さを伝える「語り継ぎ手」として活動することを目的としています。

今回は、沖縄本島と石垣市の2つの会場において養成講座を開催し、前半は、講座とフィールドワーク、後半は平和講師としての実践的な実習を行います。

【養成講座 内容】

- 講座① 琉球王国時代～戦前の沖縄
- 講座② 沖縄本島及び離島地域における沖縄戦
- 講座③ 沖縄県の戦後復興(戦後から現在)
- 講座④ 八重山の戦争マラリア

【フィールドワーク】…2回

講座⑤～⑨ 平和講話の実習・実践

次世代の「語り継ぎ手」になりませんか?

戦後79年が経過し、戦争体験者の高齢化に伴い、これまで第一線で平和講話(学習)を担ってこられた方々が減少しており、さらに、現在活動中のボランティア団体の平和講話(学習)の担い手も高齢化しており、後継者の育成が喫緊の課題となっています。この養成講座を受けて、あなたも次世代の語り継ぎ手になりませんか?

令和6年度 語り継ぎ手養成講座 参加者募集

参加費 無料

応募期間 2024年 7/10 [水] - 8/8 [木]

募集人数 沖縄本島、八重山地域 各約40名
 対象 高校生以上の方
 募集期間 2024年9月7日(土)～12月14日(土)
 講師として各県の県庁所在地の主要な博物館(合計13館) 研修は実施を予定していません。
 応募方法 2館以上の申込みで応募の上、郵送、FAX、メールなどでお送りください。上記のQRコードからもお申込みいただけます。(エッセイのお申込みも準備しております。) その他 応募者多数の場合は選考させていただきます。申し込み順に研修をさせていただきます。

主催：沖縄県平和祈念資料館

2024(令和6)年度「平和への思い(ウメイ)」発信・交流・継承事業

期間 2024(令和6)年11月23日(土) 14:00～16:30

場所 ともかぜ振興会館 多目的ホール

本事業は、次世代への戦争体験などの継承、アジア諸国との相互理解、平和構築のためのネットワークを目指した、沖縄県主催の人材育成事業です。沖縄、広島、長崎、カンボジア、韓国、台湾、ベトナムから集まった参加者は、「過去の歴史を学び続ける姿勢」、「次世代への継承」、「多様性」、「信頼と友情」そして「世界平和の架け橋」をキーワードに沖縄での共同学習を進めます。学習の成果はシンポジウムで発表されます。沖縄、日本、アジアについて考えてみたいと思います。

第1部:プレゼンテーション	
14:10～15:10 (60分)	沖縄での学びや参加者が考えた継承について発表 〔登壇者〕沖縄・広島・長崎・カンボジア・韓国・台湾・ベトナムからの参加者
休憩(10分)	
第2部:パネルディスカッション	
15:20～16:30 (70分)	～ゆさぶれ!無関心～ モデレーター:新垣誠氏 (沖縄キリスト教学院大学 教授)

平和の思い

シンポジウム

あしたのアジア

歴史がわたしたちに教えてくれることはなんですか?
 沖縄、広島、長崎、カンボジア、韓国、台湾、ベトナムの7地域の大学生が思い、過去からみえる「あしたのアジアをよくするヒント」について考えます。

過去の参加者の声

自分の変化が感じられました。学んだことを自国の若者たちと共有し、平和をもたらしたいと思います。(カンボジア)
 同世代と意見交換することで、さまざまな視点から沖縄の問題、各種の問題をみる事ができるようになりました。(沖縄)
 私は日本に偏見を持っていました。けれど、みんなと話を共有し、それが開通していった気がしました。(韓国)
 本館に言葉で思いを伝えてほしいという疑問をもち、たくさん学びがあったし、さまざまな刺激を受けました。(広島)

入場無料

11月23日(土)

ともかぜ振興会館 多目的ホール
 2:00pm - 4:30pm (開場 1:30pm)

主催 沖縄県 (主催) 沖縄県平和祈念資料館

お問い合わせ 平和祈念資料館 沖縄平和祈念センター
 Okinawa Peace Accidents Center (OPAC)
 ☎ 098-866-4635
 ○ hikuch@popac.or.jp (Eメール)

令和6年度 沖縄平和啓発プロモーション事業(沖縄戦学習動画制作・WEB公開業務)

期間 2024(令和6)年9月13日(金)～2025(令和7)年3月14日(金) 予定

概要

沖縄県平和祈念資料館学芸班では2階常設展示室を見学する沖縄県内の小・中・高校生を対象に「『平和・命について考える』～沖縄戦をとおして～」と題した平和講話を年間を通して行っています。令和5年度は110校の学校が講話を受講しました。

しかし、県内には離島・僻地校をはじめ、移動時間や手段の確保が難しく来館できない学校が多くあります。また、当館を訪れる県外の学校からも沖縄戦の概要が分かる学習用資料について問い合わせをいただけてきました。

この度、平和講話の内容を基に沖縄戦の概要を分かりやすく学ぶことができる学習動画を制作し、WEB公開を行います。

【動画の内容について】

- ① 琉球王国時代
 - ② 沖縄戦への道
 - ③ 沖縄戦の諸相
 - ④ 沖縄戦から学ぶこと、平和へのメッセージ
- 小学校高学年対象と中高生対象の2本の動画とワークシートや沖縄戦関連年表(証言映像)等をDVDで貸し出し、WEB公開予定。



平和講話資料の表紙



平和講話の様子

海外の方からの寄贈受け入れ ※当時の持ち主「當眞 嗣喜さん(恩納村)」を探しています!

概要

7月に米国在住のPatrick D Cichon氏から資料寄贈の申し出がありました。

資料は昭和10～20年ごろのものと思われる写真やハガキが中心で、軍人だったご家族が第二次大戦時に従軍していたのでその時に入手したようですが、すでに他界されているようで、詳細な拾得状況はよくわかりません。

ハガキの宛名は一部読み取ることができ、恩納村在住の「當眞 嗣喜」あてに郵送されたハガキが複数あります。関係者の方がいらっしゃいましたら、資料館までご一報願います。

【主な寄贈品】 写真 20、絵葉書 13、軍事郵便 12、書類 2、色眼鏡 1



【重要】危険物等の持ち込み禁止

当館では、銃刀法および火薬類取締法に抵触する物品や人骨については、寄贈を受け付けておりません。下記に該当する物品を発見した場合は、ただちに最寄りの警察署へ通報し、所要の手続きをしてください。

- 爆弾や砲弾(信管・内容物含む) ■ 手榴弾(信管・内容物含む) ■ ライフル銃や拳銃(構成部品・改造銃を含む)
- 銃弾(実包・薬莖・弾丸・雷管など) ■ 火炎瓶等 ■ 爆薬や火薬(破壊筒・ダイナマイト・導爆管を含む)
- 刀剣類(銃剣・軍刀・サーベルなど) ■ 人骨

2024(令和6)年度 子ども・プロセス企画展

(1) 第1回子ども・プロセス企画展「ガマから学ぶ沖縄戦」

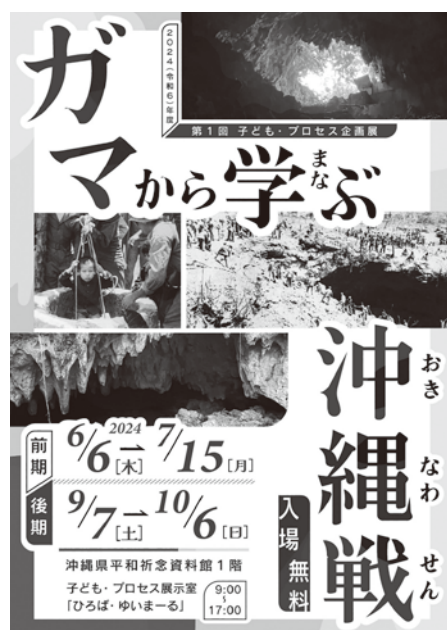
期間 前期:2024(令和6)年6月6日(木)～7月15日(月)
後期:2024(令和6)年9月7日(土)～10月6日(日)

場所 子ども・プロセス展示室「ひろば・ゆいまーる」

今回の企画展では、沖縄戦を体験した人びとにとって生死を分けた重要な場所である「ガマ」に焦点を当て、沖縄戦の概要や地域のガマについて紹介する展示を行いました。

石灰岩でできた鍾乳洞はガマと呼ばれ、堅固で地下水もあることから、沖縄戦では住民の避難場所や日本軍の陣地壕などとして利用されました。米軍が進攻してくると、ガマでは集団死や日本兵による住民迫害などで多くの人びとが犠牲となりました。その一方で、ガマに避難したことでたくさんの住民の命が救われました。

証言や沖縄戦の絵を通して、ガマでどんな出来事があったのかを知ることによって沖縄戦の実相を学び、戦争や平和について一人ひとりが考える機会としました。



企画展の様子

【観覧者アンケートより】

*せんそうをたいけんした人たちのつらいおもいがよくつたわかりました。ずっとこのへいわがつづくためには、けんかをしない、やりかえしをしない、人をこころさない。(県内:小学2年生)

*私が知っていたことの何倍も多く多くのガマやそこでの出来事にびっくりすると同時にどうしようもなく悲しくなりました。自分で経験してないからこそ、語り継ぐためにもっと勉強します。(県内:高校生)

(2) 第2回子ども・プロセス企画展「チャレンジ！夏休み自由研究—沖縄戦について調べてみよう!!—」

期間 2024(令和6)年7月20日(土)～8月31日(土)

場所 子ども・プロセス展示室「ひろば・ゆいまーる」

夏休みの機会に、子どもたちに沖縄戦に関心を持ってもらう企画として、夏休みの自由研究についてのヒントなどを紹介する展示を行いました。情報ライブラリー内には、自由研究学習コーナーを設置し、子どもたちが学習に集中して取り組めるようにしました。また、子どもたちへの助言・指導のため、会期中に自由研究相談室や子ども教室を開催しました。



見学する子どもたち



子ども教室の様子

八重山平和祈念館 活動報告

(1) 地域内教員向け見学説明会

実施 2024(令和6)年5月中旬～計4回
※4月中旬に募集(参加希望者に合わせて実施)

地域の小中学校において、平和学習の場として当館を活用いただくことを目的として、地域内の教員を対象とした見学説明会を実施しました。

説明会では、当館利用にあたっての手続き方法、常設展示の解説を行い、計4回、13名の教員の方々にご参加いただきました。



(2) 八重山平和祈念館6月企画展「戦世の沖縄～住民の戦争被害～」

期間 2024(令和6)年6月1日(土)～6月30日(日)

「住民の戦争被害」に焦点をあて、戦時中の沖縄県民がどのような被害を受け、どのような苦しい生活を強いられていたのかを知り、そして実感できるように、写真や絵、体験者の証言記録など多くの資料を展示しました。また、企画展中の6月23日慰霊の日には、戦争に関するアニメDVD上映会を実施しました。6月は最も来館者の多い時期ということもあり、多くの人々にご覧いただくことができました。

【観覧者】1,116名(大人503名、小人613名)



(3) 夏休み企画展「沖縄の行ける・学べる戦争遺跡」

期間 2024(令和6)年8月1日(木)～9月1日(日)

夏休み期間である8月に合わせ、子ども達や地域の方々が県内旅行や外出の際に平和学習の場として利用できる、当館以外の平和関連施設や戦争遺跡等をご紹介します企画展を実施しました。

また、夏休み期間の子ども達の観覧を見込み、戦争に関するアニメDVD上映会を2回実施しました。

【観覧者】743名(大人508名、小人235名)



沖縄県平和祈念資料館友の会 活動報告

沖縄県平和祈念資料館友の会では、資料館と連携しながら学習会やフィールドワークを自主的に行うとともに、県内学校及び地域における平和学習支援や平和講話、戦跡案内やポイントガイドなどの活動を行っています。

今年度は、フィールドワーク(首里・摩文仁)に会員や関係者を含め多くの方々に参加し、学びを深めていました。

平和学習フィールドワーク (in 首里)

①「首里城周辺の埋没した戦跡壕を巡る」

【日時】2024(令和6)年5月26日(日) 10:00～13:00

【講師】仲村 真(友の会)

【参加者】70名

平和学習フィールドワーク (in 摩文仁)

②「沖縄戦終焉の地 摩文仁丘陵の深部に行く」

【日時】2024(令和6)年6月29日(土) 10:00～14:00

【講師】仲村 真(友の会)

仲座栄三(琉球大学名誉教授)による摩文仁海岸の解説

【参加者】50名



入賞者一覧（優良賞以上）

今回も多くの応募がありました。図画 1,001点、作文 220点、詩 879点の中から入賞された皆さん、おめでとうございます。

沖縄県教育委員会との共催で実施している「児童・生徒の平和メッセージ」事業は今回で34回目を迎え、県内の小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の児童・生徒に、日常生活の中で「戦争」と「平和」について考えてもらうことにより平和を尊ぶ心を育む機会となっています。

入賞した優秀賞以上の44作品（最優秀賞・優秀賞）は当館の展示会を皮切りに、八重山平和祈念館、宮古島市未来創造センター、名護市立中央図書館、沖縄県立図書館の4会場で巡回展示いたしました。

児童・生徒のみなさんの素直な平和への思いが詰まった図画・作文・詩の「平和のメッセージ」作品は、展示会に来られた多くの子どもから大人の方々の心に強く響いていました。

● 図画部門 入選者

● 作文部門 入選者

● 詩部門 入選者

小学校(低)の部 (9名)			
最優秀賞	知念慶	天久小3年	
優秀賞	宜保はあ	米須小3年	
	大谷陽咲	八島小3年	
優良賞	照喜名花帆	兼城小3年	
	木村凜	兼城小3年	
	多和田翼	下地小3年	
	久高紡	八島小3年	
	大城円	兼城小3年	
	島袋那美	高江小1年	

小学校(低)の部 (6名)			
最優秀賞	仲松咲輝	兼原小2年	
優秀賞	知念慶	天久小3年	
	知念芽生	天久小1年	
	與座諒真	港川小1年	
優良賞	大谷陽咲	八島小3年	
	上間葉月	翔南小2年	

小学校(低)の部 (7名)			
最優秀賞	與座悠真	港川小3年	
優秀賞	與座諒真	港川小1年	
	金城幸羽	八島小3年	
	知念芽生	天久小1年	
優良賞	多和田光	下地小1年	
	上間葉月	翔南小2年	
	知念慶	天久小3年	

小学校(高)の部 (10名)			
最優秀賞	知念由依	天久小5年	
優秀賞	神谷咲希	兼城小6年	
	徳元穂菜	山内小4年	
優良賞	瀬長愛梨	伊良波小6年	
	池間翔生	新城小6年	
	與那嶺朱莉	浦添小6年	
	國場心桜	浦添小6年	
	仲村和真	渡名喜小6年	
	與那嶺千紗	兼原小5年	
	新里彩奈	浦添小6年	

小学校(高)の部 (3名)			
最優秀賞	知念由依	天久小5年	
優秀賞	石川愛美里	嘉芸小6年	
優良賞	原田咲空	沖縄アミークス小5年	

小学校(高)の部 (10名)			
最優秀賞	眞栄城百恵	当山小6年	
優秀賞	渡嘉敷穂な美	上間小5年	
	酒井琉羽奈	糸満小6年	
優良賞	星加倫大朗	眞喜良小6年	
	赤嶺由菜	とよみ小6年	
	久高彩芽	眞和志小6年	
	平安満里愛	眞和志小6年	
	我喜屋絵奈	光洋小6年	
	照屋心愛	新城小6年	
	諸見謝志帆	新城小6年	

中学校の部 (10名)			
最優秀賞	阿波根千芽	眞志喜中3年	
優秀賞	上原麻愛	神原中3年	
	大城燦歌	屋部中3年	
優良賞	屋嘉優里	屋部中2年	
	玉城莉央	港川中2年	
	新里奈々	港川中1年	
	座喜味粹	仲井真中3年	
	林心春	西辺中3年	
	徳元千時	球陽中1年	
	與那嶺天音	屋部中3年	

中学校の部 (10名)			
最優秀賞	島袋莉安	開邦中3年	
優秀賞	謝花日菜	開邦中1年	
	古波藏咲枝里	球陽中3年	
優良賞	新城陽菜	開邦中3年	
	喜納心葉	開邦中3年	
	粟國絢有	開邦中2年	
	上地琴子	豊見城中3年	
	田本結南	開邦中3年	
	上原諒	糸満中1年	
	大城佑月	菜國中3年	

中学校の部 (10名)			
最優秀賞	大嶺紗和	開邦中3年	
優秀賞	伊敷実花	眞志喜中2年	
	宮城日南子	開邦中2年	
優良賞	馬屋原由唯	開邦中2年	
	我謝菜々子	潮平中3年	
	川西真樹乃	潮平中3年	
	友利心優	開邦中2年	
	山田麻友	開邦中1年	
	木田葉月	開邦中2年	
	田場小晴	豊崎中3年	

高等学校の部 (8名)			
最優秀賞	立津史音	宮古高3年	
優秀賞	宮平汐音	首里高3年	
	大西結喜	開邦高1年	
優良賞	大城ゆめ	開邦高2年	
	池宮百音	開邦高2年	
	上原美春	泊高2年	
	石原柑菜	開邦高1年	
	大城沙和	首里高1年	
	岸川藍	開邦高2年	
	新垣実沙	眞和志高1年	

高等学校の部 (9名)			
最優秀賞	宮城心輝	開邦高3年	
優秀賞	仲松蒼	開邦高1年	
	平良優名	首里高3年	
	沖田椿	向陽高2年	
優良賞	比嘉大和	向陽高3年	
	松田桃果	那覇高3年	
	新里穩	開邦高2年	
	根路銘結	向陽高1年	
	棚原美晴	首里高3年	

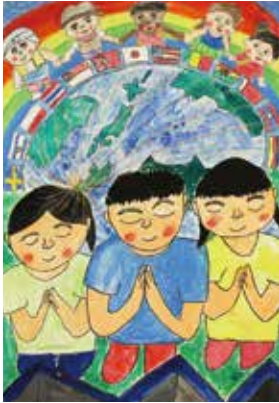
高等学校の部 (6名)			
最優秀賞	仲間友佑	宮古高3年	
優秀賞	島袋里音	開邦高1年	
	神谷桃子	開邦高2年	
優良賞	亀谷康太	那覇高3年	
	宮城莉子	開邦高2年	
	安慶田翔子	那覇高1年	

特別支援の部 (8名)			
最優秀賞	山下千咲	港川中2年	
優秀賞	仲松晃暢	浦添小6年	
	宮城璃	中原小2年	
優良賞	喜久山愛夢	兼原小4年	
	大山煌翔	中原小4年	
	當眞成泰	中原小1年	
	比嘉海斗	兼原小4年	
	春田晴奈	米須小1年	

特別支援の部 (1名)			
最優秀賞	該当者なし	港川中2年	
優秀賞	久保田愛美梨	沖縄高等特支2年	
優良賞	該当者なし		

特別支援の部 (4名)			
最優秀賞	上間広人	伊良波小6年	
優秀賞	漢那理公	美咲特支高3年	
優良賞	比屋根祐	美咲特支高3年	
	仲田満月	美咲特支高3年	

「児童・生徒の平和メッセージ」入賞作品(最優秀)の中から、図画と詩を紹介します。



「兄弟で平和をいのる」
天久小学校3年 知念 慶

小学校(低)の部

中学校の部

第34回

「児童・生徒の平和メッセージ」

図画部門最優秀作品

特別支援の部



「祈りのヒカリ」
真志喜中学校3年 阿波根 千芽

小学校(高)の部



「平和をいのって」
天久小学校5年 知念 由依



「平和の心」
港川中学校2年 山下 千咲

高等学校の部



「世界にハートとアートを。」
宮古高等学校3年 立津 史音

短い命を知ってか知らずか
蟬が懸命に鳴いている
冬を知らない叫びの中で
僕らはまた天を仰いだ
あの日から七十九年の月日が
流れたという
今年十八になった僕の
祖父母も戦後生まれだ
それだけの時が
流れたというのに
あの日
短い命を知るはずもなく
少年少女たちは
誰かが始めた争いで
大きな未来とともに散って逝った
大切な人は突然
誰かが始めた争いで
夏の初めにいなくなった
泣く我が子を殺すしかなかった
一家で死ぬしかなかった
誰かが始めた争いで
常緑の島は色を失くした
誰のための誰の戦争なのだろう
会いたい、帰りたい
話したい、笑いたい
そういくら繰り返そうと
誰かが始めた争いが
そのすべてを奪い去る
心に落ちた
暗い暗い闇はあの戦争の副作用だ
微かな光さえも届かぬような
絶望すらもないような
怒りも嘆きも失くしてしまいうような
深い深い奥底で
懸命に生きてくれた人々が
今日を創った
今日を繋ぎ留めた
両親の命も
僕の命も
友の命も
大切な君の命も
すべて
心に落ちた
あの戦争の副作用は

人々の口を固く閉ざした
まるで
戦争が悪いことだと
言っただけなのに
口止めするように
思い出したくないほどの
あの惨劇がそうさせた
僕は再び天を仰いだ
抜けるような青空を
飛行機が横切る
僕にとっっては
恐れおののくものではない
僕らは雨のように打ちつける
爆弾の怖さも
戦争の「せ」の字も知らない
けれど、常緑の平和を知っている
あの日も
海は青く
同じように太陽が照りつけていた
そういう普通の中にただ
平和が欠けることの怖さを
僕たちは知っている
人は過ちを繰り返すから
時は無情にも流れていくから
今日まで人々は
恒久の平和を祈り続けた
小さな島で起きた
あまりに大きすぎる悲しみを
手を繋ぐように
受け継いできた
それでも世界はまだ繰り返している
七十九年の祈りですさえも
まだ足りないというのなら
それでも変わらないというのなら
もっともっとなら
僕らが祈りを繋ぎ続けよう
限らない平和のために
紡ぐ平和が
いつか世界のためになる
そう信じて
今年もこの六月二十三日を
平和のために生きている
その素晴らしさを噛みしめながら

第三十四回「児童・生徒の平和メッセージ」詩部門 高校の部 最優秀賞
令和6年度 沖縄全戦没者追悼式「平和の詩」朗読作品
「これから」
沖縄県立宮古高等学校三年 仲間 友佑



編集・発行：沖縄県平和祈念資料館

住所 〒901-0333 沖縄県糸満市摩文仁614番地の1
URL <http://www.peace-museum.okinawa.jp>

TEL 098-997-3844 FAX 098-997-3947
Email webmaster@peace-museum.okinawa.jp

